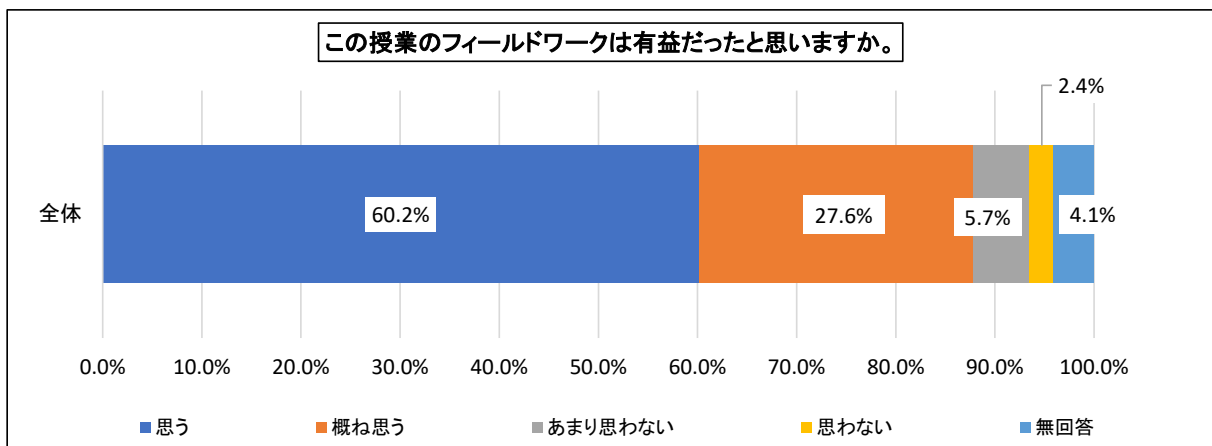
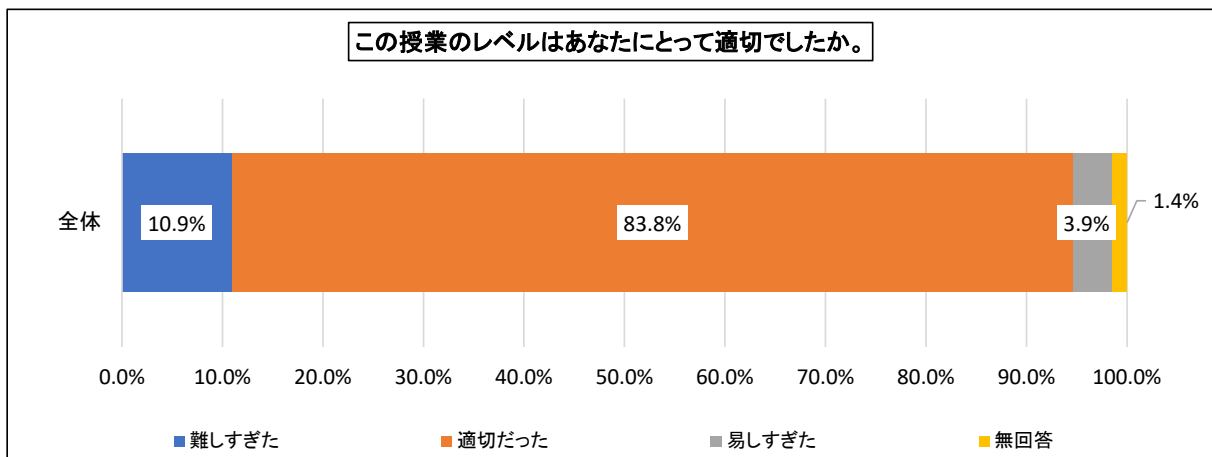
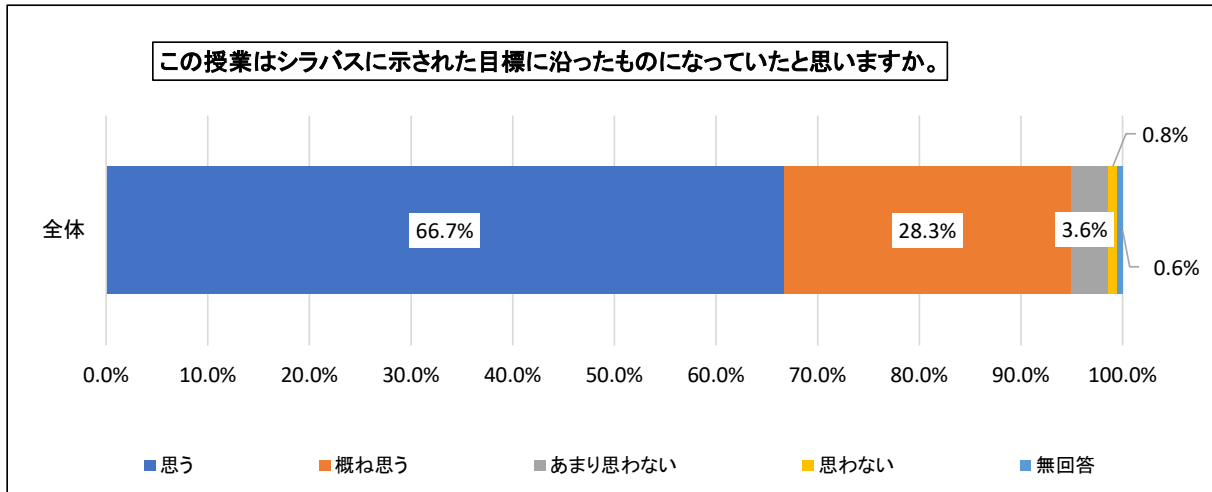
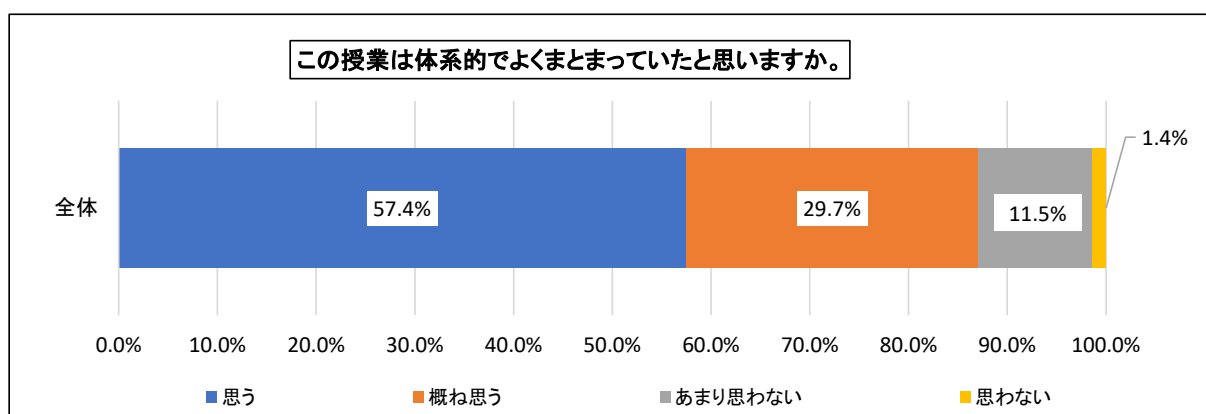
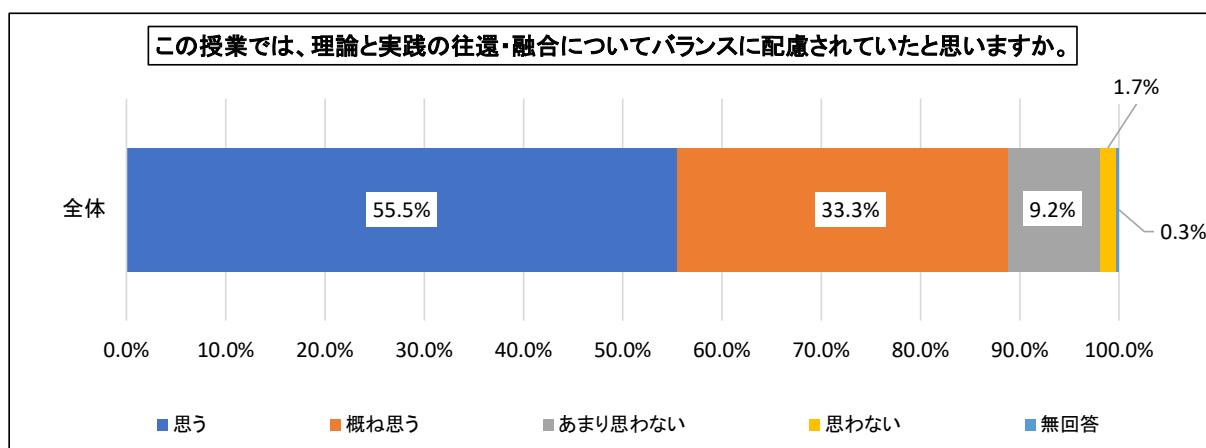


2025 年度秋学期「授業アンケート」

授業アンケートの結果

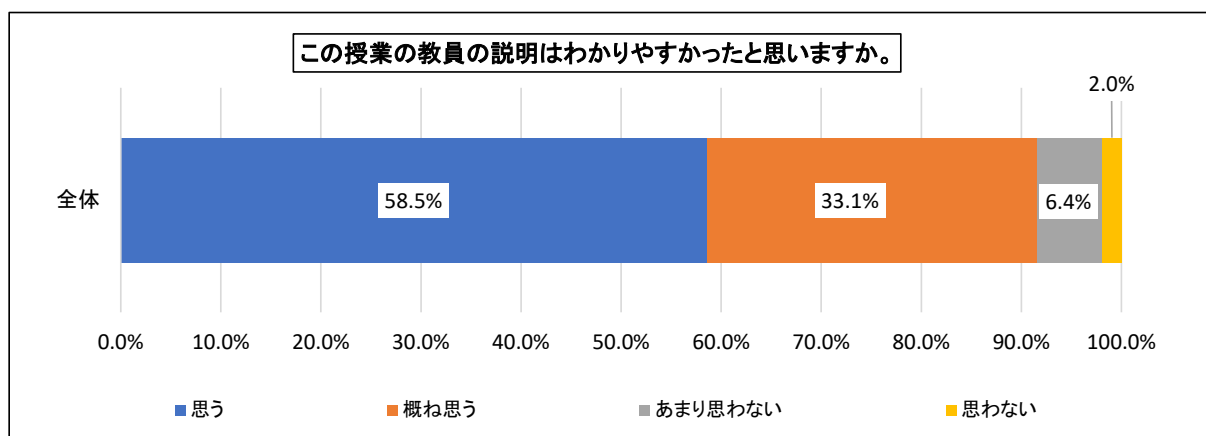
(1) 授業内容について

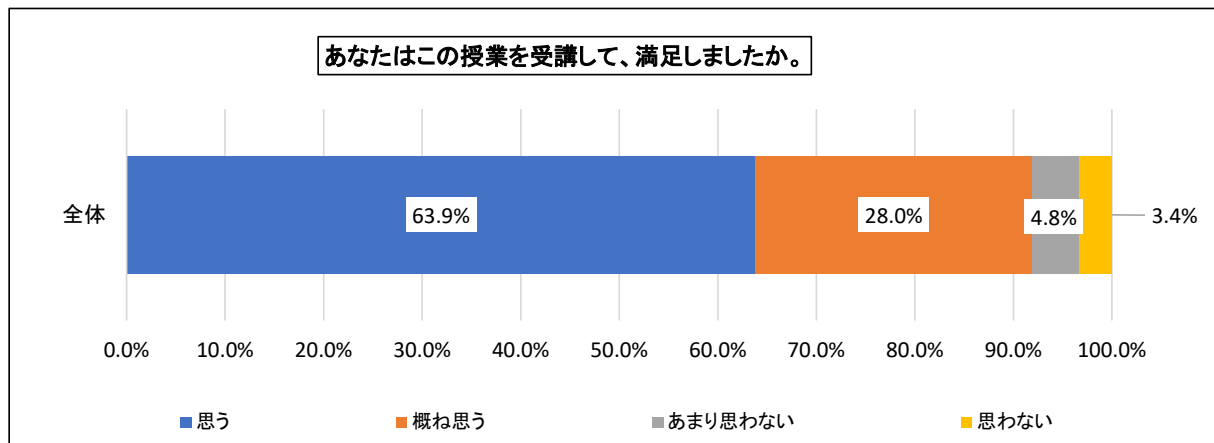
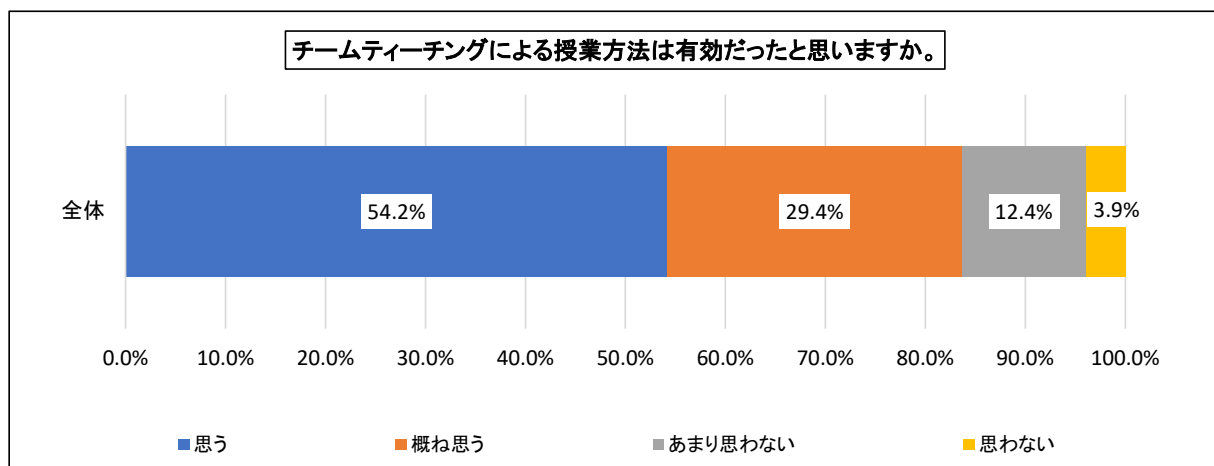
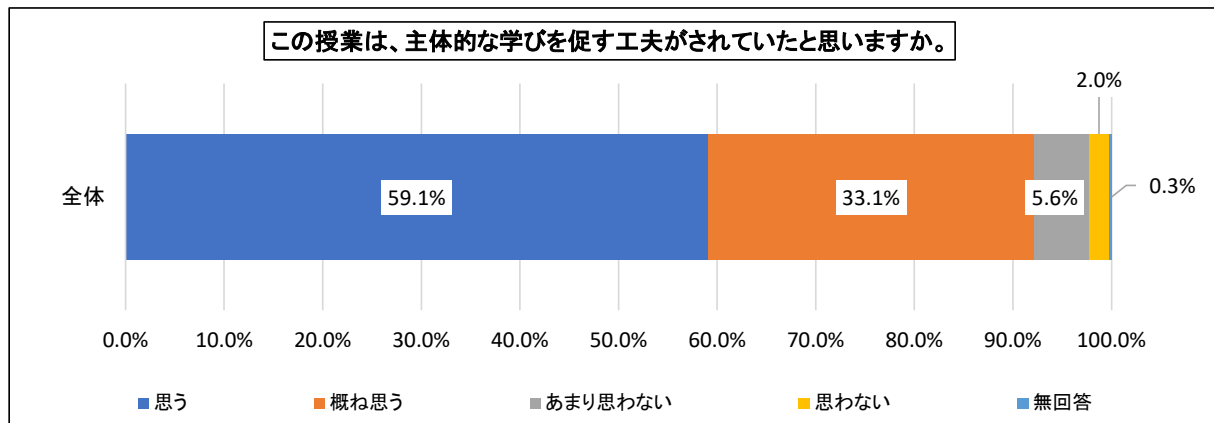




「授業内容について」の上記5項目は、肯定的な回答が9割前後となり、春学期と同様に全体として良好な状態が維持されている。ただ、「体系的」に関する設問については、12.9%が否定的な方向の回答となっている。各科目において、より体系性に関して教員が意識し、工夫していく必要がある。昨年度秋学期と比べると、「目標に沿ったもの」「理論と実践」「体系性」について、最も肯定的な回答が増加している。また、「授業レベル」「フィールドワーク」については、それが減少しているが、数値の大きな変動はない。

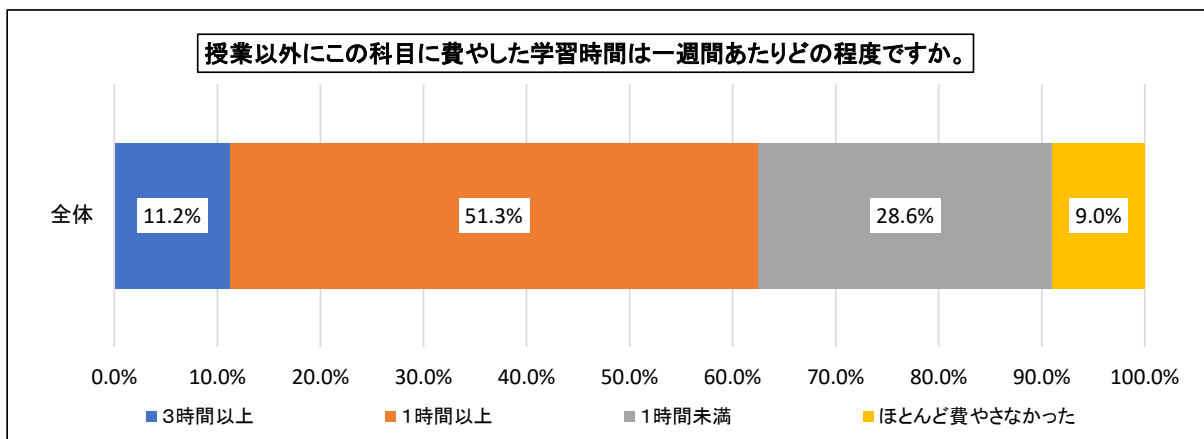
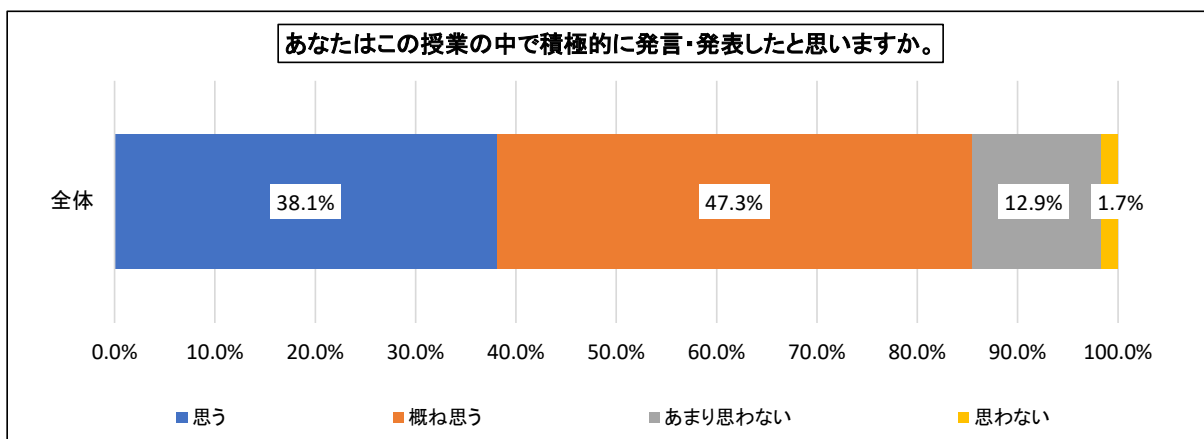
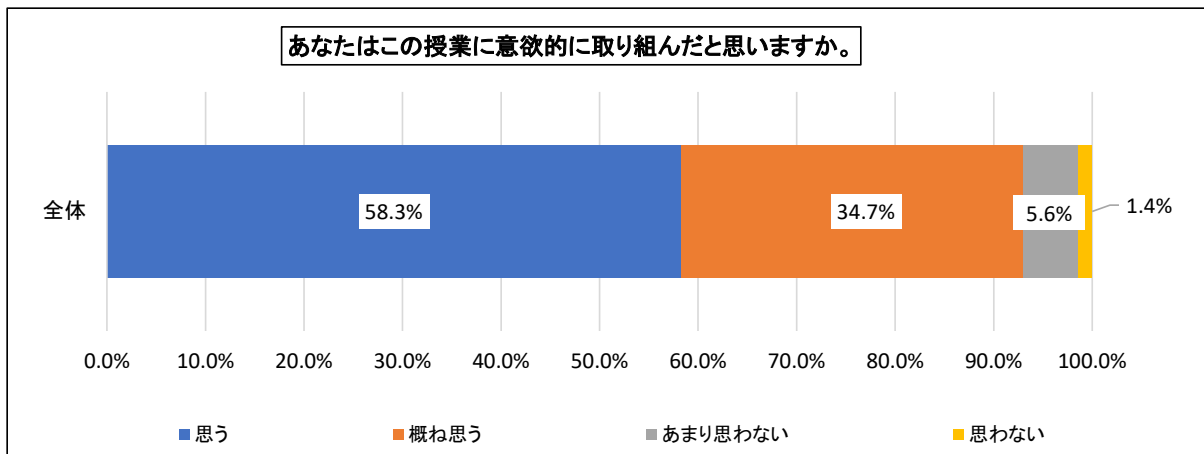
(2) 授業の進め方について

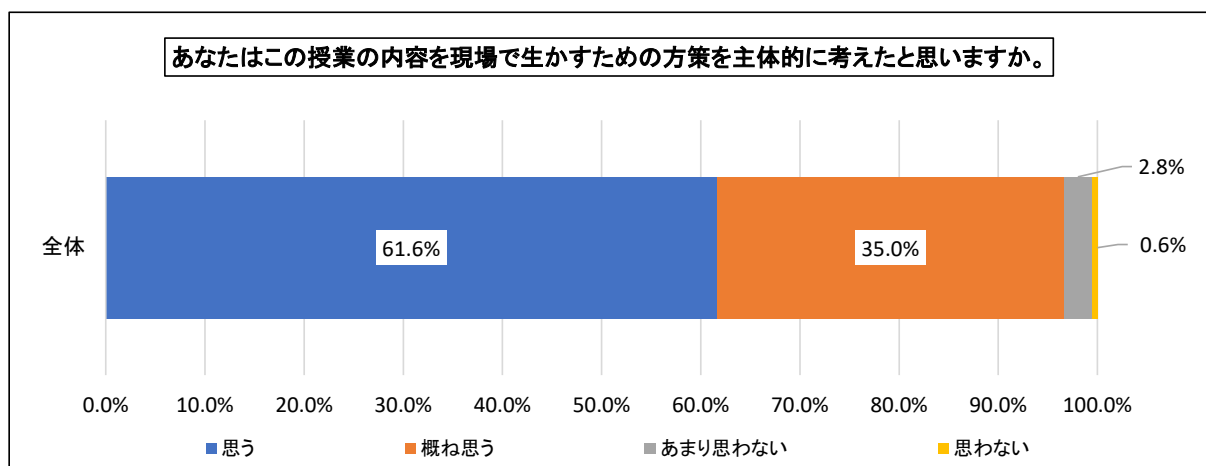
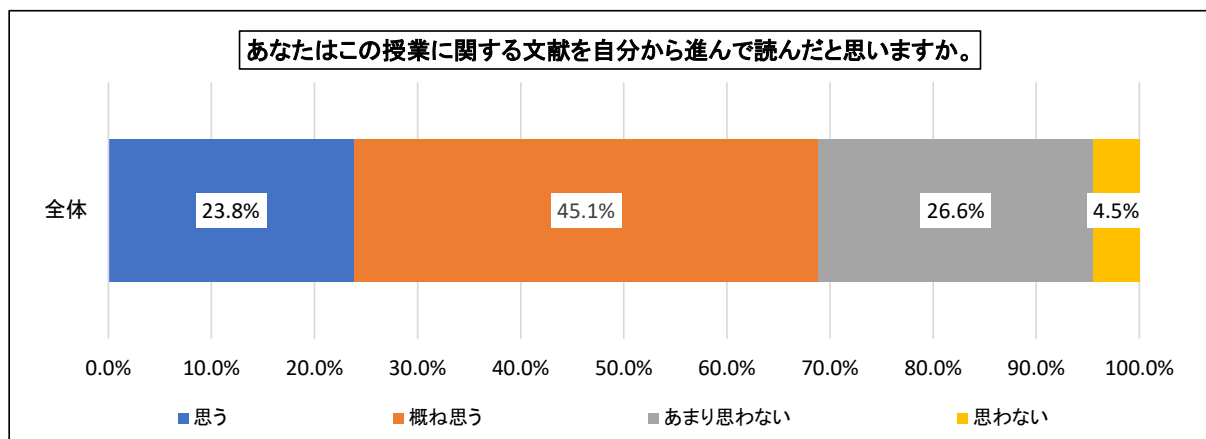




「授業の進め方について」の上記4項目も、肯定的な回答の割合が9割前後の水準にある。ただし、「チームティーチング」については、16.3%が否定的な方向の回答をしており、一層の工夫が必要である。昨年度秋学期と比べると、「説明の分かりやすさ」「主体的な学び」「チームティーチング」「満足度」のすべての項目で、最も肯定的な回答が増加している。

(3) 受講生の取組について





「受講生の取組について」の上記5項目に関しては、総じて、概ね意欲的に取り組んでいる傾向にあるといえる。ただし、授業外学習時間や、文献を自分から読むことについて、2~4割の受講生が、否定的な回答をしている。春学期と同様、学部新卒院生のうちの多くが講師等で働くことで、主体性が高まる一方、多忙となる面もあり、教職大学院ならではの理論と実践の往還に向けて、引き続きより個別的な支援が必要であるといえる。